

科目名		単位 (時間数)	時期	実習施設（実習場所）	
助産学実習Ⅰ 妊娠期		2（90）	7-12 月	① 京都医療センター（産婦人科外来） ② 京都医療センター（継続ケース） ③ 助産院 ④ 京都医療センター（2-3 病棟）	
科目目標	妊娠期の助産診断と妊婦へのケアが実践できる能力を養うことができる。				
内 容			時間数	実習場所	指導者
妊産婦のケア 1．妊婦の健康診査 2．保健指導 3．出産準備教育			4 日間 32 時間	①京都医療センター （産婦人科外来）	2－3 看護師長 副看護師長 実習指導者 外来看護師長 副看護師長 実習指導者 教員
			34 時間	②京都医療センター （継続ケース） （妊娠期）	2－3 看護師長 副看護師長 実習指導者 教員
			1 日間 8 時間	③助産院 吉川 しんかい 橋本	院長 実習指導者 教員
4．ハイリスク妊産婦のケア			2 日間 16 時間	④京都医療センター 2-3 病棟 妊婦室	2－3 看護師長 副看護師長 実習指導者 教員
評価方法	・履修規程第5条、第6条に定めるとおりとする。 ①②実習評価表（80 点） ③：地域母子保健実習の評価に含める。 ④：レポート（20 点） ※①②④の合計点（100 点満点）で評価する。				

科目名		単位 (時間数)	時期	実習施設（実習場所）	
助産学実習Ⅱ 分娩期		3（135）	7-12 月	① 京都医療センター（2-3 病棟） ② 大阪医療センター（西 5 病棟） ③ 大阪南医療センター（西 3 病棟） ④ 東近江総合医療センター（南 3 病棟） ⑤ 市立奈良病院（5 東病棟） ⑥ 京都第一赤十字病院（A6 病棟） ⑦ 国立循環器病研究センター（5N 病棟） ⑧ 市立福知山市民病院（4 階南病棟） ⑨ 足立病院 ⑩ 中部産婦人科医院	
科目目標	分娩期の助産診断と産婦の状態に応じて、安全・安楽に分娩介助ができる能力を養うことができる。				
内 容			時間数	実習場所	指導者
1．分娩期の助産診断・技術 2．助産過程の展開 3．正常分娩の介助 4．異常分娩の助産 保健師助産師看護師学校養成所指定規則の一部改正（H20） 「分べんの取扱いの実習については、分べんの自然な経過を理解するため、助産師又は医師の監督の下に、学生 1 人につき正常産を 10 回程度直接取扱うことを目安とする。取り扱う分べんは、原則として正期産・経膈分べん・頭位単胎とし、分べん第 1 期から第 3 期終了より 2 時間までとする」 ○分娩介助 10 回程度履修するため、夜間・休日の待機実習体制をとる。（全施設）			135 時間	①京都医療センター ②大阪医療センター ③大阪南医療センター ④東近江総合医療センター ⑤市立奈良病院 ⑥京都第一赤十字病院 ⑦国立循環器病研究センター ⑧市立福知山市民病院 ⑨足立病院 ⑩中部産婦人科医院 ※①～⑨のうちの複数箇所 所で実習を行う。	看護師長 副看護師長 実習指導者 教員
評価方法	・履修規程第 5 条、第 6 条に定めるとおりとする。 ・分娩介助 1 例ごとに実習評価表にて評価する（100 点） ※科目の評価は、分娩介助 7 例目以上を評価対象とする。 ・間接介助 1 例以上を実施する。 ・帝王切開手術を 1 例以上見学する。				

科目名		単位 (時間数)	時期	実習施設（実習場所）		
助産学実習Ⅲ 産褥・新生児期		2（90）	7-12 月	① 京都医療センター、他（産褥ケア） ② 京都医療センター、他（継続ケース乳児 1 か月健診） ③ 京都医療センター（NICU）		
科目目標	産褥期・新生児期の助産診断と褥婦及び新生児へのケアが実践できる能力を養うことが出来る。 NICU の機能について理解し、ハイリスク新生児とその親へのケアが実践できる能力を養うことが出来る。					
内 容				時間数	実習場所	指導者
1．褥婦の健康診査 2．保健指導（育児指導、授乳指導、家族計画、沐浴指導） 3．新生児の健康診査 4．乳児 1 ヲ月健康診査 ＊本実習は受胎調節実地指導員認定のための講習を含む。				60 時間	①産褥ケア （継続ケース含む）	分娩実習施設 看護師長 実習指導者 教員
				6 時間	②継続ケース 乳児 1 か月健診 （小児科外来）	外来看護師長 副看護師長 実習指導者 教員
5．ハイリスク新生児の観察とケア（NICU）				3 日間 24 時間	③京都医療センター （NICU）	NICU 看護師長 副看護師長 実習指導者 教員
評価方法	・履修規程第 5 条、第 6 条に定めるとおりとする。 ①②：実習評価表（80 点） ③：実習まとめレポート（20 点） ※①②③の合計点（100 点満点）で評価する。					

科目名		単位 (時間数)	時期	実習施設（実習場所）	
助産学実習Ⅳ 女性のライフサイクル		1（45）	7-12 月	① 京都医療センター（2-3 病棟） ② 京都医療センター（産婦人科外来）	
科目目標	ライフサイクル各期の女性の性と生殖に関わる健康状態の診断ができ、対象に応じた健康生活に必要な生活の援助ができる基礎的能力を養うことができる。				
内 容			時間数	実習場所	指導者
1．女性のライフサイクル各期の助産診断 2．健康生活への援助 治療・処置を受ける女性の診察補助 日常生活の援助 3．健康増進と性と生殖に関わる保健指導 4．家族への関わり			5 日間 40 時間	①京都医療センター （2-3 病棟） 婦人科	2－3 看護師長 副看護師長 実習指導者 教員
			5 時間	②京都医療センター （産婦人科外来）	外来看護師長 副看護師長 実習指導者 2－3 看護師長 副看護師長 実習指導者 教員
評価方法	・履修規程第 5 条、第 6 条に定めるとおりとする。 ①：実習評価表（100 点）				

科目名		単位 (時間数)	時期	実習施設（実習場所）	
健康教育実習		1（45）	7-12 月	① 助産学科	
科目目標	集団への健康教育を企画運営できる能力を養うことが出来る。				
内 容			時間数	実習場所	指導者
1．集団指導の企画・運営・評価 1）性教育講座 中学生・高校生（赤ちゃん講座）			16 時間	助産学科	うずらの里児童館 児童厚生員 教員
2）出産前教室 妊婦及びその家族（ファミリー教室） ＊本実習は受胎調節実地指導員認定のための講習を含む。			29 時間		教員
評価方法	・履修規程第 5 条、第 6 条に定めるとおりとする。 ①実習評価表（100 点）				

科目名		単位 (時間数)	時期	実習施設（実習場所）
地域母子保健実習		2 (90)	7-12月	① 保健福祉センター ② 継続ケース ③ 助産院 ④ 乳房外来（助産院） ⑤ 重度心身障がい児（者）施設 ⑥ 乳幼児クラブ（児童館） ⑦ 小学校
科目目標	地域の母子やその家族の保健ニーズおよび地域のさまざまな場における母子保健活動の連携について理解し、対象が主体的に健康管理できるように継続的に支援できる能力を養うことが出来る。			
内 容		時間数	実習場所	指導者
1. 地域母子保健活動の展開の実際 2. 訪問指導の実際 3. 乳幼児の健康診査と保健指導の実際 4. 助産所における助産・健康診査・保健指導の実際 5. 妊娠期から産後1ヵ月までの継続した母子と家族へのケアの実際※ 6. 産後4ヵ月程度の母子のアセスメント ※保健師助産師看護師学校養成所指定規則の一部改正（H20） 実習期間中に妊娠中期から産後1ヵ月まで継続して受け持つ実習を1例以上行う。（継続ケース）		3日間 24時間	①保健福祉センター 京都市内	健康づくり推進課 担当係長 教員
		2時間	②継続ケース 1ヵ月健診	看護師長 副看護師長 実習指導者 教員
		4日間 32時間	③助産院 ・吉川助産院 ・助産院しんかい ・橋本助産院 ※上記のうち1箇所	吉川敏子 新開幸代 橋本真理 教員
		1日間 8時間	④桃井助産院 ・野々口助産院 ※上記のうち1箇所	桃井ミヨノ 野々口ヒロ子 教員
		1日間 8時間	⑤南京都病院 （重心）	看護部長 教育担当看護師長 教員
		1日間 8時間	⑥うずらの里 児童館	館長 児童厚生員 教員
		1日間 8時間	⑦藤ノ森小学校	校長、教頭 教員
評価方法	・履修規程第5条、第6条に定めるとおりとする。 ①：実習評価表（30点） ②：助産学実習Ⅲ産褥・新生児期に含む ③：実習まとめレポート（30点） ④～⑦：実習まとめレポート（各10点ずつ計40点） ※①、③～⑦の合計点（100点満点）で評価する。			
実 習 小 計		11単位	495時間	
総 合 計		32単位	960時間	

